国語

５年生｜「千年の釘にいどむ」

# 「千年の釘にいどむ」を教材化し、協働的対話能力を育てる

半田真人｜元山形県天童市立南部小学校

## １．協働的対話能力を育てるために

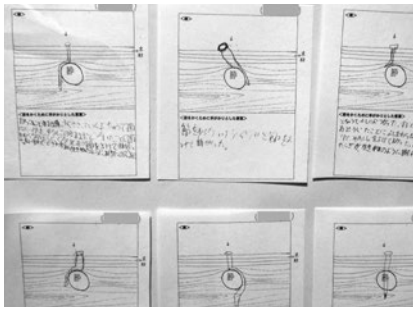
平成27年版までの光村図書５年国語科の教科書には、「千年の釘にいどむ」という教材があった。読書教材の位置づけであるが、対話能力を育てる教材にも適している。対話能力には次の３つがある。

①受容的対話能力（相手の考えを受け入れる対話能力）②対論的対話能力（互いの考えを戦わせる対話能力）③協働的対話能力（知恵を合わせて新しい考えを作り上げる対話能力）である。この教材は「協働的対話能力」を育てるのに適していると考えた。

この対話を実現するためのポイントは、①対立を恐れず自分の考えを主張する。②相手の考えの良いところに学び、互いの考えを高め合うつもりで話し合う。③真剣にねばり強く話し合う。以上３つである。

この教材には、古代の釘を木材に打ち込むと釘が生き物のように曲がり、ぐるりと節をよける話が書かれている。その挿絵を子どもたちに見せないようにし、文章を手掛かりに、図を自力で描かせる。そして図が違う子ども同士でグループを組み、正しい図になるように話し合わせるのである。

## ２．授業の実際



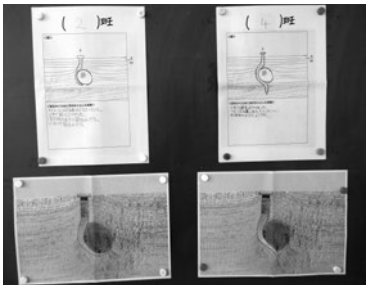
◀子どもたちが描いた図の一例

これは子どもたちが描いた図の一例である。次に示すのは、グループでの話し合いの一部である。

A：みんな、どう描いた？（一斉に見せる）
B：ちょっとそれぞれ違うね。
A：手掛かりにした言葉は？
C：「『途中で節にぶつかった』と、『節を割らないようにぐるりとその節をよけて曲がった』はいいよね」
全：「うん」
B：「『打ち込むと釘は真っすぐささっていく』もだよね」
C：「なんで？」
B：「だって、斜めにささった図じゃ、まずいんじゃない」
C：「んー、そっか」
A：「じゃ、釘の曲がり方だけど、こうじゃない？」
C：「…んー、確かに節はよけているけど、真っすぐよける？『ぐるりと』だから節のまわりにそっているんじゃない？」
…（略）…

このあと、クラス全体の話し合いに移り、最終的に残ったのは、２つの班の図だった。

２つの図とも、教科書の挿絵（左：平成27年版 右：平成17年版）とほぼ同じである。



◀最終的に残った２つの班の図と教科書の挿絵

最後に「千年の釘にいどむ」で紹介されている白鷹幸伯さん制作の本物の和釘と、和釘を木材に打ち込み、節をよけて釘が曲がる様子を映した映像を見せて、話し合った結果が正しかったことを改めて確認した。

## ３．おわりに

約20通りの図が正しい２つの図に集約したのは協働的対話の成果に他ならない。効果的な話し合いの仕方をマスターすることは深い学びへの絶対条件である。